

川田氏が率いた西川県政15年
変えないと変わらない!

いつまでも権力の座に居座り続けることは、職員の新陳代謝や企業の競争を生まない。

来年74歳を迎える西川知事自らが来春の知事選に出馬しないと勇気ある決断をしない限り、県政を引き継ぐ後継者は生まれにくい。

福井市自民党市議団は県都福井から新知事を出馬させると高らかに表明したが、未だ候補者を決められずにいる。

福井県の有権者数は65万2千人。大栗田の福井市(21万8千人)と坂井市(7万5千人)、小



子弟関係か!?

浜市(2万4千人)が知事多選にNOを突き付けて対抗馬を立て協力すれば勝算はある。

しかし、その辺を睨んでか3月27日に「西川一誠知事と飛躍する福井を語る集い」と銘打って県産業会館で盛大に政治資金パーティーが行われた。知事と利害関係を逃がすまいと業界団体や個人のおよそ千人を超える支援者を集め、知事選を意識し踏み絵を踏ませた。

西川一誠氏は平成15年4月高木文堂氏と激戦を制して初



山崎自民党県連会長(右)
齋藤県会自民党会長(上)

川田達男、勝木健俊氏をはじめとする業界団体との二枚岩では賞味期限切れもあり勝利は厳しい。

長らく西川知事に優遇されていらない県職員や中小零細企業経営者、県民は、飽きが来て誰かに代わってほしいとの意見が多いのも確かだ。

栗田幸雄前知事は衆院議員山本拓氏と平成9年に争い大勝、4期を全うし西川副知事に道を譲られて今なお健在でおられる。栗田氏は川田氏と共に歩み5期目を目指そうとする西川氏についてどのような考えでおられるのか。

知事選まで時間はない。県選出自民党国会議員5名を束ねる山崎正昭県連会長と県会自民党25名を束ねる斎藤新緑会長の知事選に向けての判断が知事選を左右する。

当選以後、3期12年に亘り共産党候補以外の対抗馬は無く、絶対安全の楽な戦いであった。西川一誠知事自身も有力な対抗馬が現れれば県民の信任票がどれだけ得られるか不透明で県下二分してまでの争いはしないだろう。県会自民党と福井、坂井市の保守系議員団の絶対的推薦がないことには



なぜ西川県政は東京になびくのか
 関西、中京圏にアピールを

福井の海産物や農産物販売の費用対効果が上がるのは、営業コストや輸送及び鮮度、物流の利便性を考えると消費人口の多い関西圏市場や中京圏市場だと思うが、苦手意識か西川知事は目を向けない。

若狭への観光客は歴史的に見ても現在でも、滋賀県、京都府、大阪府、名古屋市が大多数を占める。関西、中京の流通小売業と本県の経済界、農業団体、行政が積極的に交流し太いパイプを作り、これまで以上に農林水産業界の経済交流と活性化が必要に迫られている。若狭の人は「嶺北の人は若狭を素通り。若狭に金は使わず県民負担だけ押し付ける」と嘆く。

西川県政は関西圏との友好関係を築かず兎にも角にも首都圏通い。東京で福井県PR

物業者や生産団体、職員を引き連れるが、旅費もばかにならない。また多額の予算を費やし「いちほまれ」を大々的にPRしたが、その効果があったかは定かでない。大手イベント会社の言われるままに終わらず、費用対効果を検証する必要がある。『東京かぶれ』と言われても致し方ない。

大阪府、神戸市、京都府、愛知県、滋賀県は関西への電力供給地としても絶対的知名度と親近感がある。工業製品などの取引高は関西中京圏を中心に旺盛だ。「いちほまれ」など農産物や特産品の売り込みにこれまで以上にアピールし、積極的取引を図ることです。県内農業と漁業の農産物生産高全国44位の底上げになる。



足羽川ダム関連工事の裏で蠢く
 山崎御大に仲倉県議、杉本町長

九頭竜川水系足羽川の支川部子川（今立郡池田町小畑地先）に建設が進められている「足羽川ダム」。部子川（池田町小畑地先）にダム、水海川の洪水を導水する分水工及び導水トンネルを整備し、目標である戦後最大規模の洪水（天神橋地点の流量2400

m³/s）に対して、600m³/sの洪水調節を行う。総事業費約960億円にも上り、そのうち工事費約500億円。平成38年度末完成を目指し工事が進められていて、平成26年6月、県道松ヶ谷室慶寺大野線付替工事着工式、昨年7月には水海川導水トン

ネル工事起工式が行われた。国土交通省は30年度概算要求に52億4000万円を盛り込んだ。平成32年度にダム本体掘削、翌33年度に堤体打設に着手予定となっている。

足羽川ダム関連土木工事の入札参加や落札関係に精通する人の情報によると、山崎正昭参院議員、仲倉典克県会議員、杉本池田町長の影響力は絶大であり、県内大手建設業者の代表である道端、松田、坂川、西尾、西村氏は東京へ「山崎詣で」。山崎正昭氏の子分である仲倉県議は高野組と坂川建設の選挙地盤でもあり、両社の強力な営業マンでもある。足羽川ダム工事は杉本博文池田町長の地盤であり、今立郡の池田町と旧今立町を代表する地元土木建設業最大手関組とは師弟関係。

導水トンネル工事に関しては熊谷組が主体で、ダム本体工事に於いては大手ゼネコン前田建設と関組、建世などの

JVが有力視されている。

**道路は工事用
車両が独占**

住民移転完了で無人化した松ヶ谷く大本間の県道34号線と町道金見谷線は工事車両専用道路保護区と化し、工事車両と大型ダンプ車が行き交い道路沿いの河川には泥水が流れ出ている。

足羽川ダム関連工事で水海川導水トンネル1期工事を熊谷組が57億3800万円で落札し導水管トンネルの工事は進行中。トンネル残土仮置



工事車両と大型ダンプ車が行き交う道路

き場の管理はざさん極まりなく、各地の工事現場を知る地元専門家が国交省に通告し、担当者が改善を指摘しているが未だに対策なし。

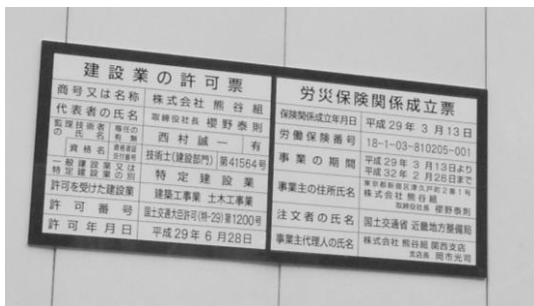
町道金見谷線の導水管トンネル抗入口現場がある箇所を全面通行止めとし一般車の迂回道路を作っているが、掘削残土を25トン大型ダンプに乗せ仮設道路を走行し残土仮置き場に運んでいる。雨ざらしの残土は大雨などにより浸食、



仮置きしているトンネル残土

その水は近くの川に流出し生態系への影響も考えられる。自然環境への配慮、環境アセスに基づく手順を踏まず営利主義に走り、時代遅れの工事施工は決して許されるものではない。

十分な工事設計予算の下で請け負った熊谷組。山奥だからとレベルの低い現場管理者を配し、誰も通行しないからとずさんな工事対応では儲け主義の準ゼネコンと言われるも仕方ない。



**公費で90%補助金を受け
小水力発電建設に疑惑の陰**

芝原用土地利用改良区(理事長・木村市助)が小水力発電所を計画。国50%、県30%、市10%の補助金を受け二タロ小水力発電所(出力103・6瓩)、中ノ郷小水力発電所(出力60瓩)の発電所建設工事を国と県の審査を経て発注した。



二タロ小水力発電所

施工工事に荏原商事、三菱日立、東芝、明電社の5社が入札参加し、荏原商事が約5億9千万円で落札。発電機は東芝製で、荏原はこれら機械設備だけ行い、設計は丸一調査設計(株)に土木建設工事は(株)松田組に決まった。

発電設備区分	水力発電設備
設備名称	二タロ水力発電所
設備ID	E815796E18
設備所在地	福井県福井市中ノ郷町20-1地先
発電出力	103.6kw
再生エネルギー	芝原用土地利用改良区 理事長
発電事業者名	福井県福井市幾久町8-25
保守点検責任者名	芝原用土地利用改良区
連絡先	芝原用土地利用改良区 TEL 0776-23-6286
運転開始日	平成27年 7月 7日

これらを知る関係者の話によると、この工事には福井市のA級土木建設業者11社が名を連ねたが、元三木組福井支店社員で平成25年には松田組に籍を置いていたT氏が仕切り、設計段階から業者談合を画策。T氏は丸一調査設計にも日参し設計料は管理料も入れて通常3千5百万円レベルが5千万円を超える高値となった。

土木建設工事に参加を希望した業者は1社に付き50万円を談合金(裏金)として11社で550万円をT氏に支払い、話を付けた模様。

平成26年6月24日、T氏、松田組の松田氏、木村理事長、S氏が「山田屋」で会食後、「凜」と「さつき」の両店で祝杯を挙げた。

T氏は松田組から毎月決められた給料を得ながら設計事務所より裏金報酬、さらに別途に松田組から談合金を含め裏金で2千万円以上の金が動き松田組を退社した。

小水力発電建設費用
「小水力発電が地域を救う」
中島大氏著書によると、小水

力発電所の建設費はケースバイケースだが、大体、出力200瓩の場合で3億円、1000瓩で十数億円といった金額が目安とある。

また総合資源エネルギー調査会小水力発電コスト検証によれば200瓩での建設費は1・6億〜2億円。運転維持費年700万、修繕費と諸費に建設コストの3%その他一般管理費とある。

**グローバル化は
必ず押し寄せる**

夜の繁華街「片町」。飲みながら仲の良い業者が手を組み、裏では利権を分配する談合。長年の慣習だが、寿命がきている。天下りにしても談合にしても「あからさま」というのは時代にそぐわない。法律では禁じているが、土建業界が昔から時間をかけて作り上げた方法だ。車の来ない道路を赤信号で渡っているよ



うなもの。それも、昔の話だ。人目を気にしながら悪いことをやっている。その気持ちで仕事は出来ない。

入札で安売り競争が始まったが、90～91%に最低価格が切り上がっても95～98%がまかり通っている現状だが、天下りや役所、役人OBに頼らず、企業の技術革新や人材の有効利用で正々堂々と落札し、営業利益を他の大手企業並みに10%の利益を上げないと業者間のトップランナーには成長しない。

福井大学医学部 推薦入学の怪？

福井大学医学部の推薦入学者は県内地域枠15名と全国枠10名となっている。センター試験と面接試験を経て2月15日に合格発表があった。

学校関係者の噂では藤島高校現役生徒がセンター試験708点で父親が助教授をしている関係か知る由はないが合格。センター試験9科目満点で900点。平均80点720点がボーダーラインとして720点取れた生徒が推薦されなかった。生徒間では「なぜ！不公平では？」と話題になっている。